

編集後記

保健医療学雑誌 6 巻 2 号をお届けいたします。今号には、Original Article 1 編、原著論文 1 編、総説 1 編、資料 2 編が掲載されております。

Akezaki 論文では脳卒中片麻痺患者の自立した杖なし歩行を予測する麻痺側下肢への荷重率を明らかにしております。そこでは、体重の 80.5%を麻痺側下肢が支えることができることが自立した杖なし歩行を獲得するためのカットオフ値としています。このような具体的な値はすぐ臨床に応用できるため有用なデータを示していただけだと思います。

関川論文では睡眠が運動時の心拍数に与える影響を検証しています。そこでは、睡眠制限を実施した場合、同じ運動強度でも心拍数の増加が認められました。このことから、睡眠不足を有する個体には運動負荷量が通常よりも高強度になる恐れがあるため注意が必要であるとしています。

三谷論文では中学生サッカー選手におけるコンディショニングについて調査結果をまとめ、疼痛発生要因を示しています。このような現状を踏まえ、中学生サッカー選手に対する具体的なコンディショニングの必要性を述べています。

資料 2 編では近年、社会問題にまで発展している『認知症』について、渡辺論文では認知症の原因疾患として最も多いアルツハイマー病の発見について紹介しています。横井論文では、認知症を有する方々が地域において安心して暮らし続けることができるように考案された『認知症ケアパス』を紹介しています。

2015 年 9 月 27 日は夜空に大きな美しい満月が輝き、幻想的な夜空を演出しておりました。そんな月を古の人々は神々しく崇め、月見という風流なイベントを考案して賞でていたそうです。今も昔も夜空に輝く月の美しさは変わることなく時空を越えてそこに存在していることがとても感動的に思います。研究においても、不変の真理は美しく一片の曇りもなく存在し続けることと似ています。保健医療学雑誌でも、皆様から投稿頂きました研究成果を保健医療に携わる人々に限らず今後も幅広く発信してまいりますので、ますますの投稿をお待ちしております。

(2015 年 9 月 30 日)

編集実務担当

椰野 浩司 (関西福祉科学大学)